

特集 人を植える道

炎の指揮者が語る

一人ひとりに潜む ダイヤモンドを いかに輝かせるか

[対談]

小林研一郎 指揮者 鈴木秀子 文学博士

「世界のコパケン」「炎のマエストロ」と親しまれ、世界的な音楽活動が続ける指揮者・小林研一郎氏。幼少期、クラシック音楽に目覚め、父親の反対の中、独学で音楽の勉強を続け、今日の礎を築いた。そして音楽家として、人の長所を見つけ、それを伸ばす姿勢を貫いてきた。「小林先生は人を育てる名人」と称える文学博士の鈴木秀子氏に、その人生観、仕事観をお聞きいただく。



こぼやし・けんいちろう——昭和15年福島県生まれ、東京藝術大学作曲科、指揮科の両科を卒業。49年第1回ブタベスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞を受賞。その後、多くの音楽祭に出演するほか、ヨーロッパの一流オーケストラを多数指揮。平成14年の「ブラハの春音楽祭」では、東洋人として初めてフェョフィムを指揮。現在、ハンガリー国立フィル桂冠指揮者、名古屋フィル桂冠指揮者、日本フィル音楽監督などを務める。東京藝術大学教授、東京音楽大学客員教授。

すずき・ひでこ——東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了、聖心女子大学教授を経て、現在国際文学療法学会会長、聖心会会員。日本で初めてニアグラムを紹介し、第一人者として各地でワークショップなどを行う。著書に「9つの性格」(FHP研究所)「死にゆく者からの言葉」(愛と癒しのコミュニティオン) (ともに文藝春秋)「生かされる理由」(幻冬舎)「あなたの心が死んでいなくなる本」(青春出版社)など多数。